

第19回番組審議会

2016年3月2日(水) 午前11時00分～から中国新聞ビル8階の中国経済クラブ会議室で開催された。出席者はふれあいチャンネル事務局6名、審議委員6名が出席。

ふれあいチャンネル

- 1 山本 治朗 代表取締役社長
- 2 北川文雄 専務取締役
- 3 土井 俊裕 執行役員
- 4 佐々木 啓之 執行役員
- 5 和田 知己 編成制作部 部長
- 6 土井 宙 編成制作部 次長

番組審議委員

- 1 委員長 斎藤 清三 NPO 法人ひろしま生涯教育研究所理事長 元吉備国際大学教授
- 2 委員 三宅 昌臣 中国新聞社顧問、元中国新聞社常務取締役
- 3 委員 三瀧 恒雄 税理士
- 4 委員 沼 静香 海田町国際交流協会会長
- 5 委員 高木 文代 ボンジュールファミリー教室 代表
- 6 委員 前田 満樹 WEST (西部地区) ミュージックジャンボリー 代表

社長あいさつではひろしまケーブルとふれあいが土橋に拠点を構えて2年目に入り、番組編成が完全共通化されたことを報告。カーブ関連の番組、2軍中継は主要番組として定着しつつあり次年度もこれらをベースに内容の拡充を図っていく。また、年末にはケーブル4Kの放送を開始し、ふれあいも4K制作番組を提供していくことなどを説明。

事業概況では北川専務がテレビ、インターネット、電話などの加入者数と新サービスなどについて説明した。

今年度の番組ダイジェストと、ケーブル4Kの番組の視聴を合わせておこない和田部長からコミュニティチャンネルの概況、編成内容について説明をした。

■自由討議・意見交換

齋藤委員長～カタカナ標記が氾濫しているメディア界の現状を危惧している。コミチャンの番組内容に福祉や教育の視点をもっととりいれてもらいたい。

沼委員～取材するだけではなく現地でイベントなどと組み合わせてPRするとより地域とのつながりも深まり、今まで以上にコミチャンの視聴習慣がつくのではないか。

高木委員～コミチャンの印象、通称のインパクトが弱い。たとえばキャラクターを前面に出して「ちゅピCOMチャンネルとは何か」を親しみやすくCM仕立てにしてPRしてはどうか。

三宅委員～ちゅピCOMブランドを周知させる対策をうつことが急務。

事務局～名称変更して2年経過しているが周知が徹底されていない面もあるのでCMや営業告知などの内容を検討する。ただ、名前は知らなくても「11chでやっている番組。2軍中継など…」という言い方をするとわかってもらえることが多い。

前田委員～加入者を募るPRはよく見かけるが、コミチャンでどんな番組内容をやっているのかを周知するものはあまり見かけない。たとえば「ちゅピCOM応援団」のようなものをしつらえて、作り手と視聴者のやりとりが感じられるような番組の双方向化ができるようにして、番組に親近感をもってもらえるようにできないだろうか。

三瀧委員～カープ中継をやりだしてから印象は相当変わった。ケーブルにしかできない番組だと思う。特に8/21の一軍巨人戦中継は良かった。私も他の委員同様、ふれあいチャンネルとちゅピCOMがイコールになっていない人が多いと感じている。

まとめ

齋藤委員長～本日、各委員から出た意見を番組制作に生かしていただきたい。コミチャンの内容を知ってもらえるような工夫やちゅピCOMと視聴者が双方向でやりとりできるような番組作りなど、さらに存在感を増すように努力してもらいたい。

事務局～委員の皆様にご指摘、ご提案いただいた番組などへの直言はいろいろと気づかされ、励みにもなります。数々のご意見やアイデアは検討して番組企画や加入者サービスに反映させてより一層の充実を図ります。

以上。